

猛烈な寒波が列島を襲った昨年12月17日、豪雨災害から4か月を迎えた丹波市市島町を2人の男が訪れた。

阪神大震災後、様々な政策提言を行ってきた専門家集団「神戸復興塾」塾長で神戸商科大(現県立大)名誉教授の小森星児さん(79)(篠山市黒岡)と、豪雨災害直後に丹波市内で結成されたNPO法人「gift」理事長の小橋昭彦さん(49)(丹波市春日町中山)。

豪雨災害は死者1人、全半壊68戸、家屋浸水945戸などの被害を出し、今も117人が避難生活を送る。50万立方分の土砂も仮置きされたまま。人口流出が加速する懸念もある。被災地は10年先の課題に直面している」と小森さんが言う。小橋さんは町を元気にする人を集め、育てていきたい」と力を込めた。

小森さんは20年前、神戸市東灘区の自宅マンションで被災した。当時、学長をしていた県立姫路短大に車で避難する途中、長田区の大火で足止めされ、車内で一夜を明かした。翌朝、焼け野原となった街を見て絶句した。「大失敗。もっとやるべきことがあった」

専門は都市政策。1970

神戸復興塾 NPO法人「gift」

共助の20年 被災地に学ぶ



豪雨災害の被災地を視察する小森さん(左)と小橋さん(丹波市市島町)

お付き合ひ 橋渡し

年代以降、六甲アイランドや西神ニュータウンなど数々の都市計画を審議する諮問組織のまとめ役を務めた。当時の行政は、古い市街地の過密を解消する郊外のニュータウン開発に熱心だった。新しい街ができれば古い街にスペースが生まれ環境は改められていくと……。だが現実とは違った。災害にもろい環境は放置され、忘れられてきた。大震災はそれを知らしめた。

一方、被災地ではボランティアと行政、市民らの協働、共生の動きも芽生えた。小森さんは「大震災が啓示した新たなコミュニティの萌芽を追求しよう」と、NPOや医療福祉関係者、建築都市プランナーらと「神戸復興塾」を設立した。

行政の目が届きにくい県外に避難した被災者の実態を調査し、支援が受けられるように尽力した。仮設住宅の「孤独死」が問題化すると、復興住宅に入居した高齢者が孤立しないように、入居前から近隣住民と顔見知りになれる場を設けた。

大震災から10年を迎える頃、篠山市に移住。そこで「面白い男」と出会う。

京都市の広告会社に勤めていた小橋さん

ある日、小森さんが突然、牛舎を訪れた。当時はNPOや市民を支援するひょうごボランティアグループの所長で、牛舎に興味を持ったという。小橋さんも、小森さんの活動に刺激を受け、「丹波にも住民と行政の間に立つて支援する組織があれば」と考え始めた。

その後、同じ志を持った若い世代が市内で個々に活動を始めた。農業、林業、子育て、教育……異分野の9人に呼びかけ、NPO法人「gift」の準備をしていた時、豪雨災害が発生。「今しかない」と設立した。

今年は町づくの人材を育てる市民講座を開く。「ボランティアは人助けではなく、自分も人も気持ちいいつきあい方だと伝えたい」

小森さんは今、東日本大震災の被災地支援にも携わることが「ボランティアの役割は災害支援だけではない」と言う。

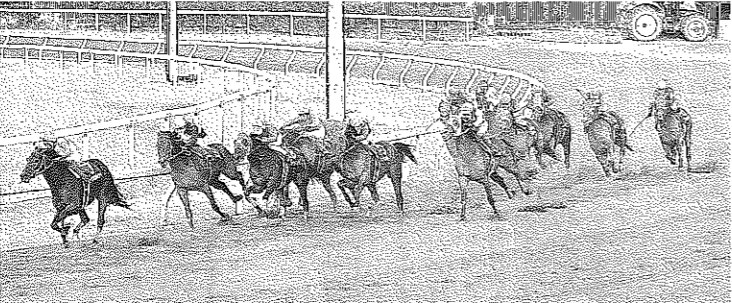
「例えば子どものいじめや登校拒否などで助けを求める人がいる。そういう課題を見つけ、支える人のネットワークが必要だ」とgiftに期待する。

阪神で芽吹いたボランティアの志は、丹波の地でどんな花を咲かせるだろう。

(田中聡)

県競馬組合2年ぶり黒字

13年度園田、姫路存続に光



園田競馬(尼崎市)と姫路競馬(姫路市)を運営する県競馬組合の2013年度の単年度収支が、2年ぶりに黒字となった。黒字額は約5億3200万円。インターネットなどで馬券を買う「在宅投票」や、ナイター競馬が好評だったことが後押しとなり、売り上げが回復。今年度も勢いを維持しており、関係者は競馬存続に期待を寄せる。

同組合によると、13年度の売り上げは約340億円。前年度から約42億円の増。12年10月、日本中央競馬会(JRA)の在宅投票システム(I-PAT)が地方競馬でも利用できるようになり、在宅投票の売り

上げが12年度比約1.5倍になったことや、同年9月に始まった「ナイター競馬」で、家族連れや女性グループなど新しいファン層を開拓できたことが功を奏したという。

両競馬を巡っては経営悪化を受け、県の「競馬事業活性化委員会」が08年、単年度収支が赤字になった年度を含む5年間の収支で、事業の存廃を判断すべき」と提言。約5億5100万円の赤字を出した10年度から見極め期間が始まり、13年度まで累計の収支は約2億5200万円の赤字と厳しい。ただ、13年度の回復に加え、最終年度となる今年度も約4億円の黒字を見込んでおり、同組合は「何とか存続できよう」と胸をなで下ろしている。

同組合は、ゆるキャラや女性アイドルによるPRに

開封楽しみ 貸本福袋 尼崎・北図書館

図書館のスタッフがテーマ別に選んだ本3冊を紙包みの「福袋」にして貸し出す催しが4日、尼崎市南武庫之荘の市立北図書館で始まった。新しい本との出会いを楽しんでもらおうと試みで、6日にも行われる。



選んだ「図書館福袋」を受け取る児童(尼崎市南武庫之荘の市立北図書館で)

同館の閉架図書も含む約17万3000冊から、スタッフが厳選。幼児、小学生低学年から一般まで六つの年代別に計30袋を用意した。幼児は「ゆき」「いぬ」、一般は「開運」「演劇」などキーワードが書かれた「年賀状」カードを館内のボードに掲示。来館者が選んでスタッフに渡すと、関連本が入った包みが渡される。

「まじゅつ」の福袋を受け取った同市武庫之荘西、市立武庫東小3年の上田万結さん(8)は「どんな本が入っているか、家に帰って開けるのが楽しみ」と笑顔を見せた。

6日も先着30袋を用意する。貸し出しは午前9時から。小学生以下は午後4時45分、一般が午後7時30分まで。

加え、週末には子ども向けイベントなども増やし、親しみやすい競馬場作りに取り組みしている。松谷全隆事務局長は「利用者のうち、来場者は2割に満たない。都市型競馬場の利点を生かして、来場者増にも力を入れたい」としている。

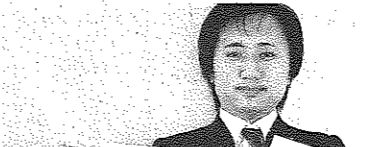
阪神

阪神支局
TEL 0798-67-2155
FAX 67-2156
〒663-8204
西宮市高松町5-39
なでしこビル7階
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/hyogo/
電子メール
hanshin@yomiuri.com
三田支局
TEL 079-564-6613
FAX 564-6616
〒669-1529
三田市中央町4-5
三田ビル6階
尼崎06-6482-2011
伊丹072-781-3010
宝塚0797-74-7077
川西072-757-9212
伊丹市内の
販売店へのご用は
TEL 072-777-1305
広告のご用は
TEL 078-391-2906

楽しい旅をお約束 読売旅行

神戸営業所
TEL 078(332)1711
さくら阪神営業所
TEL 0798(63)3800

3歳児保育 子育て情
尼崎市
15歳以下の「子育て世帯」として、尼崎を盛り込んだ住み続けるための取り組みを、毎年初めに、誕生日に郵送する予定。2013年転出した30家族を持った家族は約60%と短いことが子どもが1歳で世帯では、数を上回る状態。しかし、子に入学した世帯の差は縮ま住宅の取得を「3歳児を持つ住を働きかけると判断した。冊子には、もの成長が7きる「うちのヌア、J.R.版



あすのよみ	天気	神戸	姫路	洲本	三田	豊岡	丹波
1月6日 火曜日 友引 旧暦11月16日	北部 南部 西部 北(あ) 南(あ) 西(あ)	午前 午後 夜 晴 曇 雨	0	0	0	10	0